

各 関 係 機 関 の 長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和 8 年度 技術情報第 11 号(サツマイモのムツスジアシナガゾウムシに使用可能な農薬の追加)について (送付)

サツマイモのムツスジアシナガゾウムシに使用可能な農薬 (追加) について、下記のとおり取りまとめましたので、周知及びご指導をよろしくお願いいたします。

なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ (<https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiad/boujoshou/index.html>) にも掲載しています。



令和 8 年度 技術情報第 11 号

- 1 対象病害虫 ムツスジアシナガゾウムシ
- 2 対象作物 サツマイモ
- 3 防除農薬

【植物防疫法第 29 条第 1 項の規定】

(1) ムツスジアシナガゾウムシに対しては、サツマイモにおいて植物防疫法第 29 条第 1 項に基づく措置として、下記の農薬 (表 1) を使用した防除が可能である。なお、使用にあたってはラベルを確認し、農薬の適用作物、使用方法、使用時期、散布液量、希釈倍数、使用量、使用回数を守ることで、出荷停止等、流通に支障が生じることはない。

【現在、使用可能な農薬】

(2) 本虫に対して令和 6 年 5 月にグレーシア乳剤、コテツフロアブル、スミチオン乳剤およびベネビア OD の 4 剤が植物防疫法第 29 条第 1 項の適用を受け、ベネビア OD を除く 3 剤は令和 8 年 3 月に適用拡大された。なお、本虫に対して複数回の防除が必要であり、薬剤抵抗性の発達を防ぐために作用機作の異なる農薬が必要であること、同時期に発生する他の害虫も考慮する必要性があることなどから、ベネビア OD に関しては適用拡大が行われるまで第 29 条第 1 項の適用を継続する (令和 7 年度技術情報第 31 号、令和 8 年 3 月 19 日付)。

【今回、追加する農薬】

- (3) 本虫の分布範囲は拡大傾向にあり、まん延を防ぐためには広域的な一斉防除が有効であると考えられることから、ベネビア OD について使用方法として「ムツスジアシナガゾウムシに対する無人航空機による散布」を追加する。
- (4) 本虫に対して上記以外の農薬について室内試験を実施した結果、トクチオン乳剤が食毒、接触毒とも高い結果であった。また、本剤の特性として、遅効的であるが、比較的残効が長いとされることから、長期間成虫が発生する本虫の防除に有効と考えられる。

4 防除上注意すべき事項

- (1) 防除の際は、安全使用基準を遵守し、周囲に飛散しないように十分注意する。また、散布ほ場周辺に収穫間近のほ場がある場合は、農薬の飛散により周辺ほ場の出荷に影響を及ぼす恐れがあるため、周辺ほ場の生産者と十分に連携をとり、散布時期や散布方法を調整する。特に、周辺に茶園のあるサツマイモほ場では、チャにおける使用時期、使用回数がサツマイモと異なる場合があるため、茶園への飛散防止に十分留意して防除を行う。
- (2) 本虫は、サツマイモほ場で二世代程度を経過するが、その発生時期は第一世代成虫は 7～8 月

頃、第二世代成虫は9～10月頃である。本虫の寿命は長いことから、無防除の状態では、成虫数が増加し被害が進展するので、各世代の成虫の発生時期を中心に防除する。

(3) 農薬を散布する際は、つるや葉柄など成虫が摂食する部位によく付着するよう丁寧に行う。

(4) 防除後に成虫の発生や被害の進展が認められる場合は、追加で防除を行う。

5 参考

表1 植物防疫法第29条第1項の適用により使用可能な農薬

商品名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	適用病害虫						
						タバコ コナジ ラミ	ヨツ モン カメ ノコ ハム シ	ナ カ ジ ロ シ タ バ	ヒ ル ガ オ ハ モ グ リ ガ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	ア リ モ ド キ ゾ ウ ム シ	イ モ ゾ ウ ム シ
ベネビアOD	4,000倍	100～300L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	○	○	○	○	○	○	○
	40倍	1～2L/10a	収穫7日前まで	3回以内	無人航空機による 散布	○	○	○	○	○	○	○
トクチオン乳剤 ¹⁾	1,000倍	100～300L/10a	収穫21日前まで	3回以内	散布			○		○		

注1) トクチオン乳剤の殺虫効果試験(室内試験)

- ・供試倍数：1,000倍
- ・試験期間：令和8年6月3日～7日
- ・試験方法：食餌浸漬法(食毒)

葉を切除したサツマイモ新梢(10cm)5本を薬液(展着剤未加用)に30秒間浸漬し、風乾後に成虫を10頭放飼して、24時間ごとに96時間まで生死を調査(3反復)

虫体浸漬法(接触毒)

孔をあけた沈澱管に成虫を10頭入れて、薬液に(展着剤未加用)に10秒間浸漬し、風乾後に葉を切除したサツマイモ新梢(10cm)5本を給餌し、24時間ごとに96時間まで生死を調査(3反復)

- ・結果：いずれの試験も72時間後の調査で全て死亡し、高い殺虫効果が認められた。

注2) 登録内容：令和8年6月25日現在